

鯨絵から読み取る 消えた安政の地震観について

都立戸山高校 SSH地学 津森彩華



1.動機

- ・私は未だ大地震を経験したことが無く、実際に被災した方の心境について関心を寄せていた。
- ・鯨絵には、現在のように深刻に地震を受け入れている上、その時代特有の表現の自由さも見受けられる。
- 何故このような鯨絵においての思考がなくなってしまったのかを探りたい。
- これにより、今後の防災の呼びかけや、復興等に向けての心理的要因を促進出来るのではないかな？

2.研究方法

みんなで翻刻(<https://honkoku.org>)や、古地震研究所等よりご提供いただいた資料を用いて鯨絵を調べる。次の2つの観点において研究を行った。

- ①鯨絵に見られる地震観について、鯨絵と文を関連させて読み取る。
安政江戸地震においての5つの鯨絵を使用し、研究を行った。
- ②何故①は現代にないのか、Google フォームを使用して地震観についてのアンケートを取り、調べる。

3.仮説

- ①・文を読み取るにより、絵よりも明確に昔の思考が読み取れると思う。
・今は異なったプラス思考が表されていると思う。
- ②・安政江戸地震でブームになり、その年に禁止されてしまったということをサイト等で知った。その上で、表現の自由が認められた今でもこの地震観が戻ってこない事には何か思考の変化があったのだと思う。

4.結果

①	資料名	①江戸鯨と信州鯨	②なまづ蒲やき	③しばらくのそとね
鯨(状態)		押さえつけられているが、笑っているようにも見え、江戸鯨と信州鯨で鯨の形が異なる	人を追っている色とりどり手は人の形	鯨坊主押さえつけられている
人間(状態)		鯨を押さえつけているまた、鯨に押し潰されている困った顔をしている人がほとんど	逃げている、格好が様々笑っているように見える人がほとんど	要石で鯨を押さえつけている見得を切っている刀を持っている
記載文から読み取れること		雷『俺なんぞはとても取わないから親父や火事にそう言おう』職人『これでわっちらが困ります』左下『おもらいが困ります』	金も『こんな事なら早く使ってしまったものを』職人『もう謝るから堪忍して』	題『雨には困りますしばらくのそとね』『山やまの手丸の内から小川町見渡す焼場の赤つら』
その他		雷神、僧も見られる	雷神が上から見つめている	地震で家が使えなくなり、外で寝るということから、しばらくのそとねという題になっている
	資料名	④生捕ました三度の大地震	⑤鯨筆を震	⑥じしん百万遍
鯨(状態)		網に結ばれながら、話したり、看板を見たりしている浴衣を着ている	筆をふるって周りにいる人に渡している	押さえつけられているが、笑っているように見える
人間(状態)		大工や左官(儲けた側の人間)が鯨の蒲焼き屋さんの前で許してやってもいいのではと宥めている	室内：鯨の書いた書を受け取って喜んでいる外：地震により不利益を被った人々が暴れている	鯨を押さえつけている困った顔をしている人がほとんど雷神、僧も見られる
記載文から読み取れること		大工『まあともかくもわっちらにお願いなすってください』左官『こんなことでもなけりゃ鼻の下が干上がります』野郎『どうかこんどのころはお見逃しくださいませ』	室内のみ『一生掛物にいたします』『これも書いて貰えばあとへ残るものだ』『これは俺が貰っておこうこんな仕事でも受け取ってえ』	『この度、私は、千年から国々を悩め、鹿島様へ度々わび入、今度又、大江戸を乱暴にいすぶり、家藏を倒し、人をおふく漬し、もう今度は申し訳なく、出家いたし』
その他		信州、江戸、小田原の大地震の鯨を描え、鯨の蒲焼屋の前で話している	内では鯨を笑しに囲み、外では暴れている	鯨を押さえつけている困った顔をしている人がほとんど、雷神、僧も見られる

②アンケートを計98人(主に学生)に答えていただいた。

Q1.地震は深刻に捉えるべきものだと思いますか？



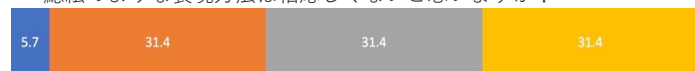
Q2.地震によって生じた利点(復興特需)を素直に受け止めることは許容できることだと思いますか？



Q3.鯨絵を知っていますか？



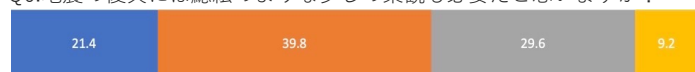
Q4.上に「はい」と答えた方へ(35人)鯨絵のような表現方法は相応しくないと思いますか？



Q5.上記のいずれかの質問で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた方へ 何故そう思うのかを教えてください

- ・地震は多くの人が亡くなるから。
- ・甚大な被害をなすものとして、利点だけを考えるのは無慈悲だから。
- ・地震から得られる利点はその犠牲に見合っていない。
- ・誤解を招くから。

Q6.地震の復興には鯨絵のような少しの楽観も必要だと思いますか？



5.考察

アンケートでは私が読み取った鯨絵の思考に反する意見が多く見られた。主に④、⑤では地震による利益を得たものが堂々と描かれているのに対し、今の地震観によると「許容できること」という枠の中においても[できる:できない]がほぼ[6:4]となり、良いことではないと思っている人が多い。また、Q4より、鯨絵のような表現方法は相応しくないと考える人が6割以上を占めた。しかしながら、Q6では鯨絵のような楽観も必要であると答えた人が6割以上を占めている。ここで考えられるのは「犠牲」に目を置いた場合と「復興」に目を置いた場合における考え方だ。前者ではQ1、Q5のように相応しくないとされる鯨絵も、後者では必要であると考えられている。鯨絵は「復興」のために「世直し」の為に書かれたものであるから、これは現代に通ずるものかもしれない。但し、このようなあからさまな表現は現代には使われていない。その点において現代と安政の地震観の変化が読み取れる。



7.謝辞

研究、及び本ポスターの作成にあたり、京都大学古地震研究会の加納先生及び研究所員の皆様、戸山高校SSH地学担当である先生方にアドバイスを参考資料の御提供等、様々な点で御協力をいただきました。また、アンケートに於いても多くの方々にご回答いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

6.今後の展望

結果より、「復興」において楽観的な思考が必要であるということが安政、現在共に通じて見られた。しかしながら古文書が私が確実に読めているか、アンケートに於いても未だ観点が少ないという問題がある為、これからこの2点を重点に研究していけたら良いと思う。古文書を鯨絵以外にもより多く読めるようになり、より多くの考え方を見出し、アンケートの観点へ繋げていきたい。



8.参考文献

- <東京大学総合図書館所蔵 石本コレクション
<https://iif.dl.itc.utokyo.ac.jp/repo/s/ishimoto/page/home>(参照 2021-11-26)>
- <かわら版・鯨絵にみる江戸・明治の災害情報－石本コレクションから
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/html/tenjikai/tenjikai2008/index.html>(参照 2021-11-26)>
- <伝える－災害の記憶 お江戸の厄災 あいおいニッセイ同和損保所蔵災害資料
<https://unpel.gallery/exhibitions/お江戸の厄災/>(参照 2021-9-26)>
- <みんなで翻刻
<https://honkoku.org>(参照 2022-1-31)>